

I 本校における「総合的な探究の時間」の目標

探究の見方・考え方を働かせながら、身近な地域や社会の課題や特性について理解を深め、体験や協働的な学びを通して多様な他者と関わる力を育むことで、自己の将来や生き方について主体的に考え、社会参加や貢献につなげる資質・能力を育成する。

II 「総合的な探究の時間」で探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力

1 知識及び技能	2 思考力、判断力、表現力等	3 学びに向かう力、人間性等
・北海道のゼロカーボン推進に向けて、特に若者を中心とした道民の意識の高まりや行動の変化が重要であることを理解する。 ・ゼロカーボンを啓発する上で必要な、基本的な知識や技能を身に付けることができる。 ・ゼロカーボンの啓発活動に向けて、目的に応じた情報を見付け、取捨選択する力を身に付ける。	・地球温暖化に関連する問題について情報を整理し、根拠をもとに啓発活動の目標を設定し、計画を立案することができる。 ・啓発活動に向けて、必要な情報を集め、分かりやすく整理・分析することができる。 ・具体的な根拠を示しながら、自分の考えをわかりやすくまとめて表現することができる。	・友達と協力しながら、ゼロカーボンの啓発活動に主体的に取り組もうとする姿勢をもつ。 ・ゼロカーボン北海道の数値目標を意識し、地域の一員としての自覚をもって、社会に参画し貢献しようとする。 ・先入観にとらわれず、将来像に向けて課題を多面的・俯瞰的に捉え、情報を整理・発信しようとする。

III 「総合的な探究の時間」の単元計画の概要

目標を実現するにふさわしい探究課題	ア	ゼロカーボン北海道の数値目標達成に向けた啓発活動の実践		
単元目標	ゼロカーボンや北海道の課題について理解を深め、情報の収集・分析、相手意識をもった発表を通して、社会参画・貢献への意識を育てる。			
月	主な内容		探究の過程	時数
6	・昨年度までの「S-TEAM教育推進事業」の取組を振り返り、整理することで若者に対する啓発活動の方法や計画を検討する。		課題の設定	5
7	・地球温暖化に関する世代別の意識調査を行う。また、経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン戦略課との対談を実施する。		情報の収集	6
9	・意識調査と対談を踏まえた上で最適な啓発活動を検討する。		整理・分析	10
10	・第2回あいcircleを開催し、ブース運営やステージ発表を通してゼロカーボンの啓発活動を行う。また、中間発表に向けて一度、まとめを行う。		まとめ・表現	6
11	・あいcircle参加者への追跡調査結果から、取組の改善の方向性を見出し、啓発活動の方法や計画を検討する。		課題の設定	5
	・ゼロカーボン戦略課にあいcircleの活動を踏まえて、今後の活動計画について助言やアドバイスをもらう。		情報の収集	6
12	・助言やアドバイスを基に、仮説を立て、取り組むべき活動に向けて情報の整理・分析を行う。		整理・分析	10
	・「BRIDGE構築事業・Ezo探究プロジェクト」「ゼロカーボン」に関する今年度の結論や考察をまとめ、啓発活動の為に制作した動画等を道庁のHPに掲載する。		まとめ・表現	5

- (注) 1 「目標を実現するにふさわしい探究課題」とは、目標の実現に向けて学校として設定し、生徒が探究に取り組むためのものであり、横断的・総合的な学習としての性格をもち、探究の見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい、教育的に価値のある諸課題のこと。
- 2 「目標を実現するにふさわしい探究課題」の欄には、探究課題を簡潔に記載するとともに、次のア～オに該当するものの記号を入力すること。
- ア 国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な学習
- イ 地域や学校の特色に応じた課題
- ウ 生徒の興味・関心に基づく課題
- エ 職業や自己の進路に関する課題
- オ その他
- 3 「探究の過程」の欄には、「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」、「まとめ・表現」のいずれかを入力すること。

I 学習の様子

【課題の設定】 5月

昨年までの先輩たちの探究結果から、若年層の認知度を上げ意識を高めることが重要であることが分かっている。そこで、若年層の意識を高めるための方法を考え話し合った結果、温暖化による影響についての危機感を持ってもらうことが効果的なのではないかという仮説を立て、取り組みを行った。

【情報の収集】 6月

「温暖化による影響で最も困ること」について、北海道庁で357名にアンケート調査を実施した。また、北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン推進課の方からゼロカーボン北海道に係る道民意識調査の結果について、ゼロカーボンを意識しないままであることで起こりうる地球の危機的状況、これまで行われているゼロカーボンの取り組みなどについて説明いただき、理解を深めた。

【整理・分析】 7月

アンケート調査の整理・分析結果から、海面上昇・異常気象の増加・生態系の変化が危機感を持ってもらうための内容としてふさわしいことを理解した。幼児向け、少年向け、青年向けそれぞれに効果的な方法を話し合い、「絵本」「動画作成」「ポスター」「参加型企画」「リサイクル」などの取り組みを計画した。

【まとめ・表現】 10月～

動画やポスターによるゼロカーボンの啓発・ペットボトルキャップを利用したリメイク講座・地元野菜の販売を行った。また、6月のアンケートで足りなかった若者の票を集めるため、「温暖化による影響で最も困ること」の追跡調査も行った。あわせて、私たちの啓発活動の効果を確かめるため、企画参加後にはゼロカーボンについての意識の変化もアンケート調査した。

II 探究活動の成果

- ・参加型企画の中で実施したショート動画の視聴、ポスター、スライド発表による啓発活動により、参加した半数の人が、「危機感持った」と回答している。また、来てくれた人の9割以上が、「二酸化炭素を削減したい」「自分もゼロカーボンを意識して取り組もう」と回答したことから、参加型企画の啓発活動は効果的であった。
- ・北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン推進課との連携や大学生との関わり、街頭アンケート、発表会までのプロセスを通し、より理解を深め、身近なこととしてとらえて意欲的に探究することができた。
- ・対象を若年層に絞ることで、ねらいを明確化した上で、課題の解決に向けた探究活動への取り組みを進めることができた。

III 今後に向けて

- ・探究のプロセスに沿ったスケジュールの随時の見直し
- ・思考を整理するためのワークシートや生成AIの活用の充実
- ・探究活動を充実させるための普通科教職員の指導方法の共通理解